

子育て等に関する県民意識・ニーズ調査 概要版

目次

1	少子化問題について	1
2	子育て環境と支援策について	5
3	子育てについて	8
4	家庭と仕事の状況について	15
5	結婚に対する意識について	16

調査の目的

この調査は、結婚や子育てについての県民の意識や子どもたちの置かれた状況を把握し、少子化対策を進める上での基礎資料を得ることを目的として実施しました。

調査の性格

- 調査地域 福岡県全域
- 調査対象者 県内に居住する満 18 歳から 49 歳までの男女 10,000 人
- 調査方法 郵送法（郵送回収または、インターネット回答）
- 調査期間 令和5年 11月6日（月）～11月30日（木）
- 回収率 有効回収数 2,436 人（有効回収率 24.4%）
- 回答者の属性

全体		全体		男性		女性		無回答	
		2,436(人)	100.0 (%)	885(人)	36.3 (%)	1,524(人)	62.6 (%)	27(人)	1.1 (%)
年齢	18～24歳	268	11.0	105	11.9	163	10.7	-	-
	25～29歳	255	10.5	102	11.5	153	10.0	-	-
	30～34歳	368	15.1	117	13.2	249	16.3	2	7.4
	35～39歳	435	17.9	150	16.9	283	18.6	2	7.4
	40～44歳	543	22.3	197	22.3	344	22.6	2	7.4
	45～49歳	538	22.1	211	23.8	326	21.4	1	3.7
	無回答	29	1.2	3	0.3	6	0.4	20	74.1
配偶関係	未婚	859	35.3	321	36.3	524	34.4	14	51.9
	配偶者(パートナー)がいる	1,415	58.1	529	59.8	883	57.9	3	11.1
	配偶者(パートナー)と死別した	4	0.2	-	-	4	0.3	-	-
	配偶者(パートナー)と離別した	138	5.7	30	3.4	107	7.0	1	3.7
	無回答	20	0.8	5	0.6	6	0.4	9	33.3

※回答比率の合計は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているため、必ずしも100%にならないことがあります。

※複数回答の設問では、回答率が100%を超える場合があります。

※数表、図表、文中に示すNは、回答率算出上の基数（標本数）です。

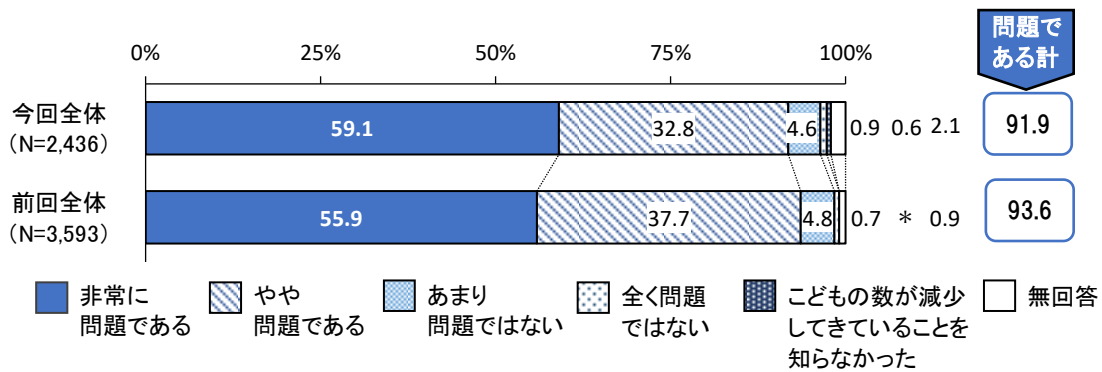
※前回調査とは『福岡県「子育て等に関する県民意識調査」平成31年3月』を指します。

1 少子化問題について

(1) 出生率低下について

・少子化が進んでいることについては、59.1%の人が「非常に問題である」、32.8%の人が「やや問題である」と回答し、これらを合わせた9割以上の人々が問題意識を持っています。

● こどもの数の減少に対する意識



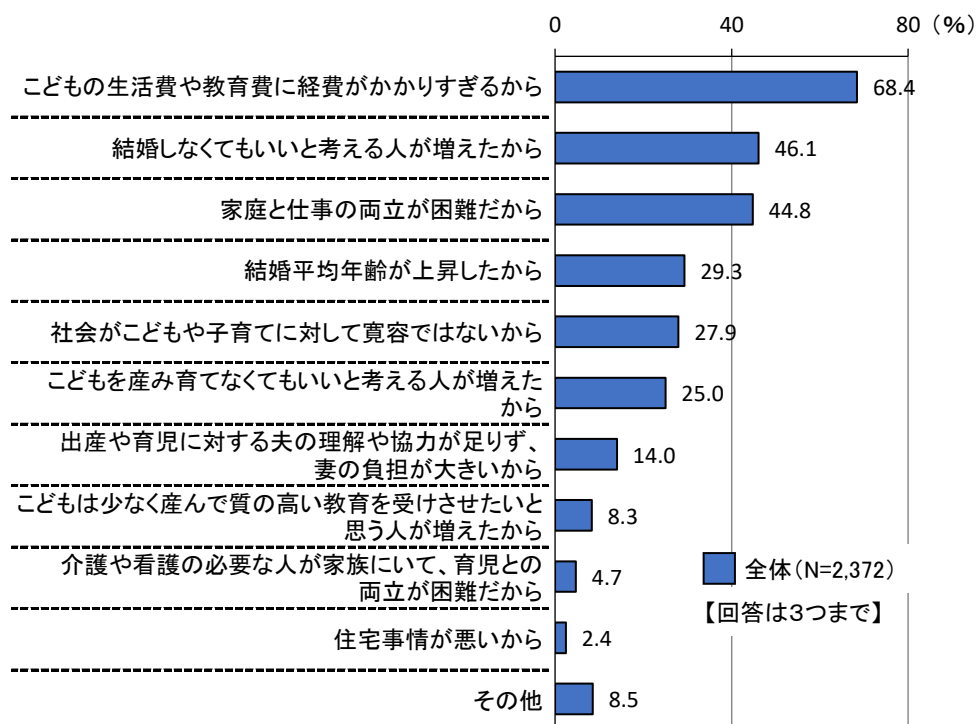
※前回調査は出生率低下を知っている人のみ回答

◆ 出生率低下の原因

・「こどもの生活費や教育費に経費がかかりすぎるから」(68.4%)や「家庭と仕事の両立が困難だから」(44.8%)、「社会がこどもや子育てに対して寛容でないから」(27.9%)といった、いわゆる子育て環境の問題をあげる人が多くなっています。

また、「結婚しなくてもいいと考える人が増えたから」(46.1%)や「こどもを産み育てなくてもいいと考える人が増えたから」(25.0%)など、価値観やライフスタイルの多様化を少子化の原因とする人も多い結果となっています。

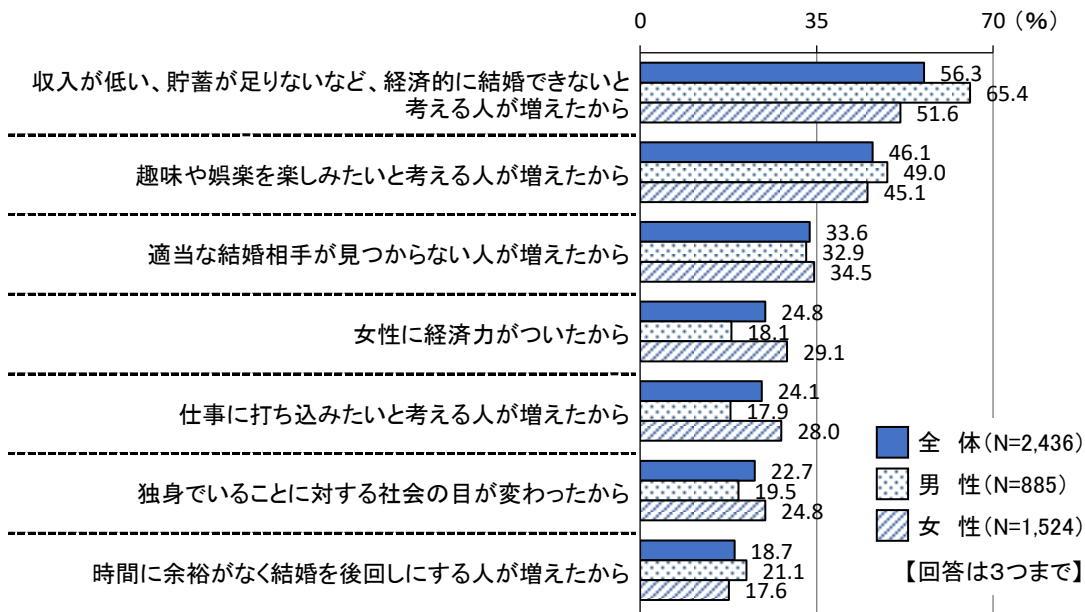
● 出生率低下の原因



(2) 結婚年齢上昇の原因

- ・「収入が低い、貯蓄が足りないなど、経済的に結婚できないと考える人が増えたから」が最も高く、特に男性で 65.4%と高くなっています。次いで「趣味や娯楽を楽しみたいと考える人が増えたから」が男女ともに高く、経済的問題と価値観の変化を原因とする人が多くなっています。

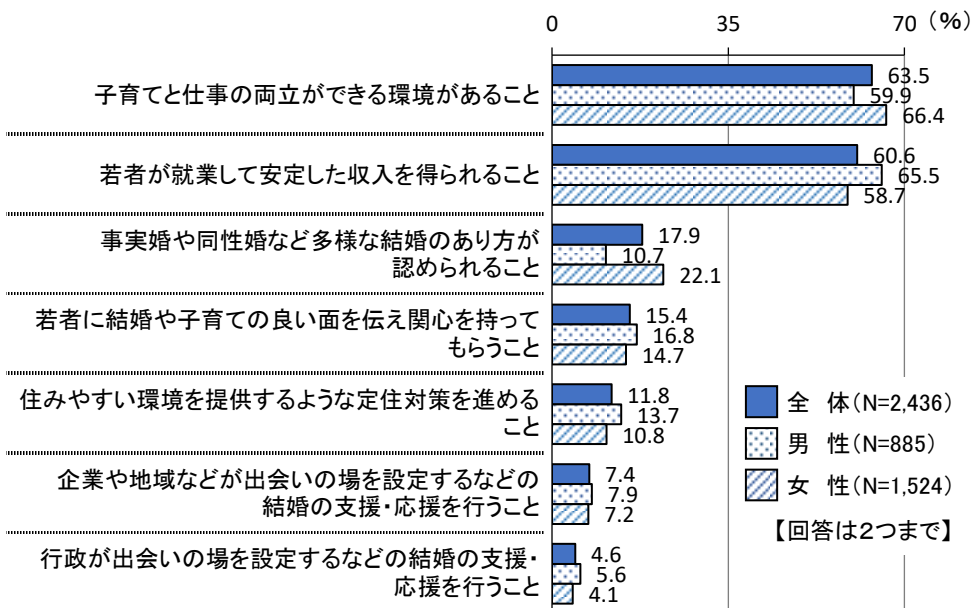
● 結婚年齢上昇の原因（性別）上位 7 位



(3) 結婚したいと思う人が結婚するために必要な要素・支援策

- ・結婚したいと思う人が結婚するために必要なことは、「子育てと仕事の両立ができる環境があること」(63.5%)と「若者が就業して安定した収入を得られること」(60.6%)をあげる人が多くなっています。

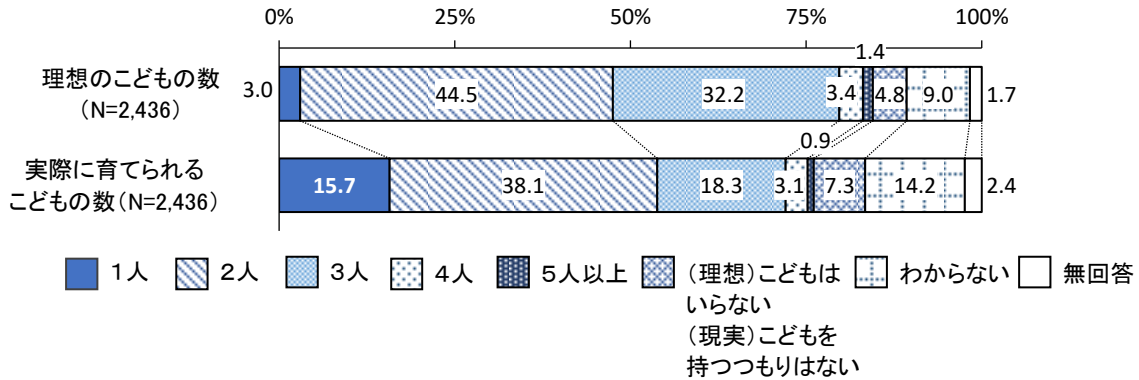
● 結婚したいと思う人が結婚するために必要な要素・支援策（性別）上位 7 位



(5) 理想と現実に育てられるこどもの数

- 理想の数は「2人」(44.5%)と「3人」(32.2%)で7割台半ばを占めています。一方で、実際に育てられると思うこどもの人数は、最も高い「2人」(38.1%)では、理想よりも6.4ポイント低く、「3人」(18.3%)も13.9ポイント低くなっています。反対に「1人」(15.7%)では、理想の数より12.7ポイント高くなっています。

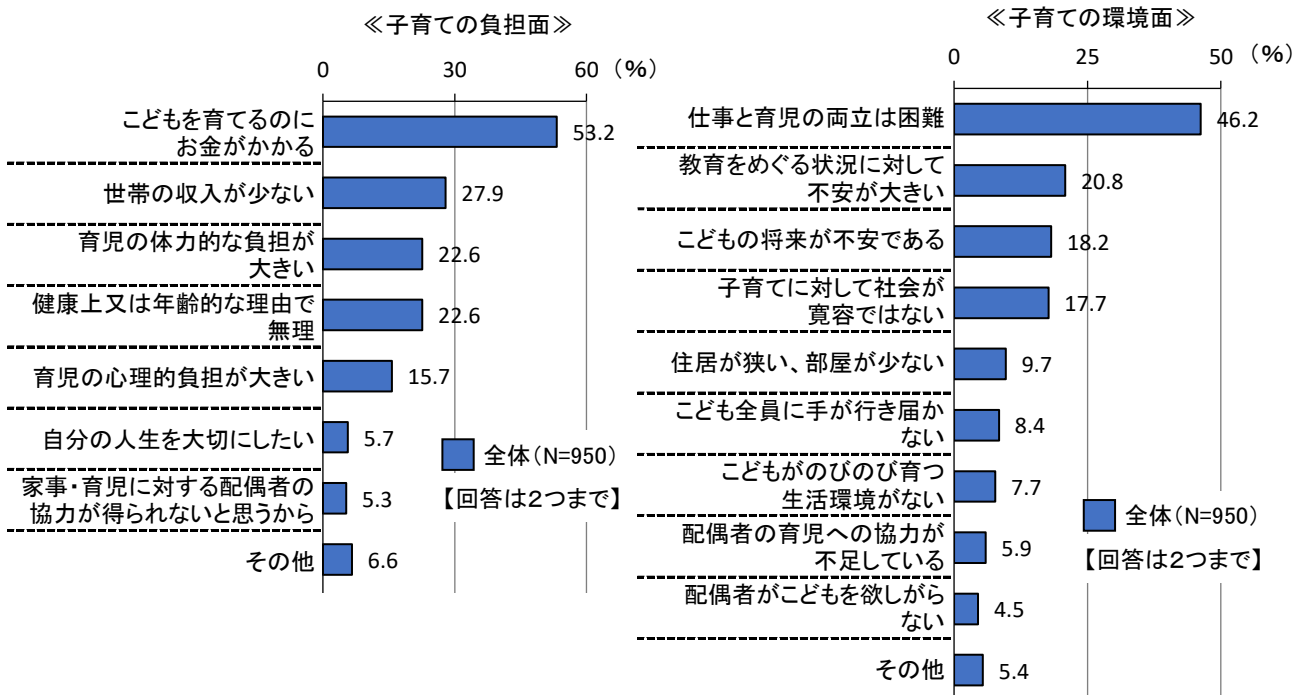
●理想と現実に育てられるこどもの数



◆理想より現実に育てられるこどもの数が少ない理由

- 実際にもてると思うこどもの数が理想よりも少ない人に理由をたずねた結果では、負担面では「こどもを育てるのにお金がかかる」(53.2%)と「世帯の収入が少ない」(27.9%)が上位となり、経済的な面が大きくなっています。
- 環境面では、「仕事と育児の両立は困難」(46.2%)が最も高く、結婚したいと思う人が結婚するために必要な支援策として最も高い「子育てと仕事の両立」と重複しています。

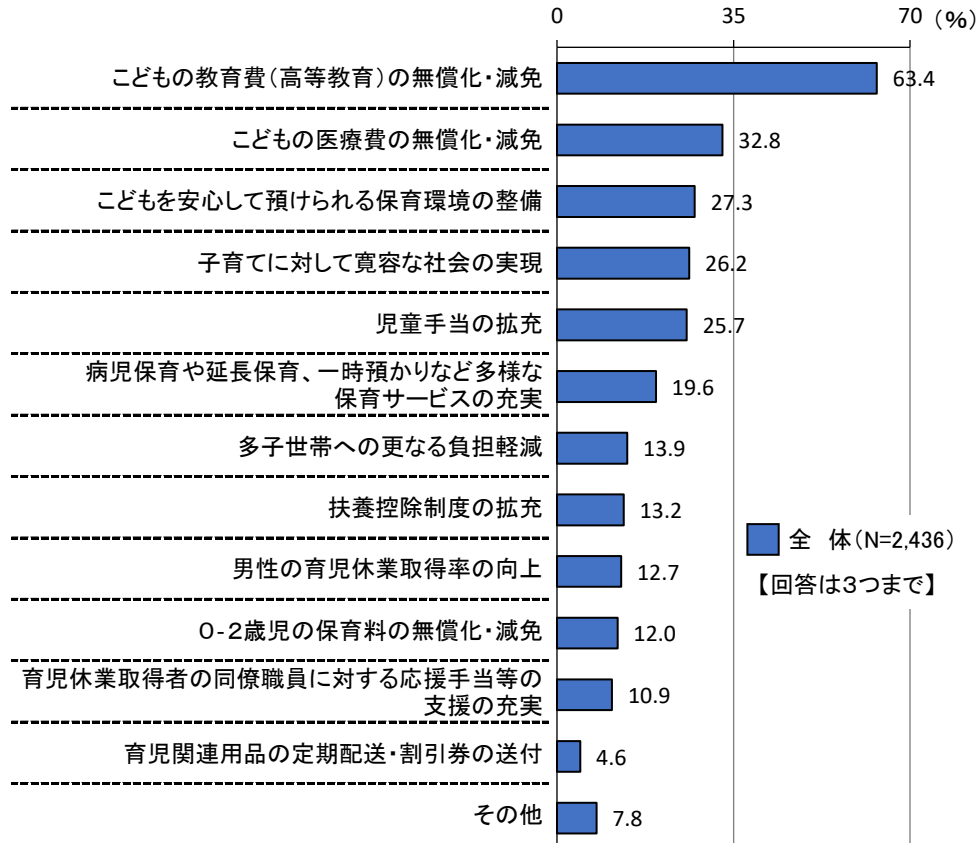
●理想より現実に育てられるこどもの数が少ない理由



◆仮にどのような制度や環境があれば（さらに）子どもをもちたいと思うか

- ・「こどもの教育費（高等教育）の無償化・減免」（63.4%）や「こどもの医療費の無償化・減免」（32.8%）を挙げる人が多くなっています。

●仮にどのような制度や環境があれば（さらに）子どもをもちたいと思うか



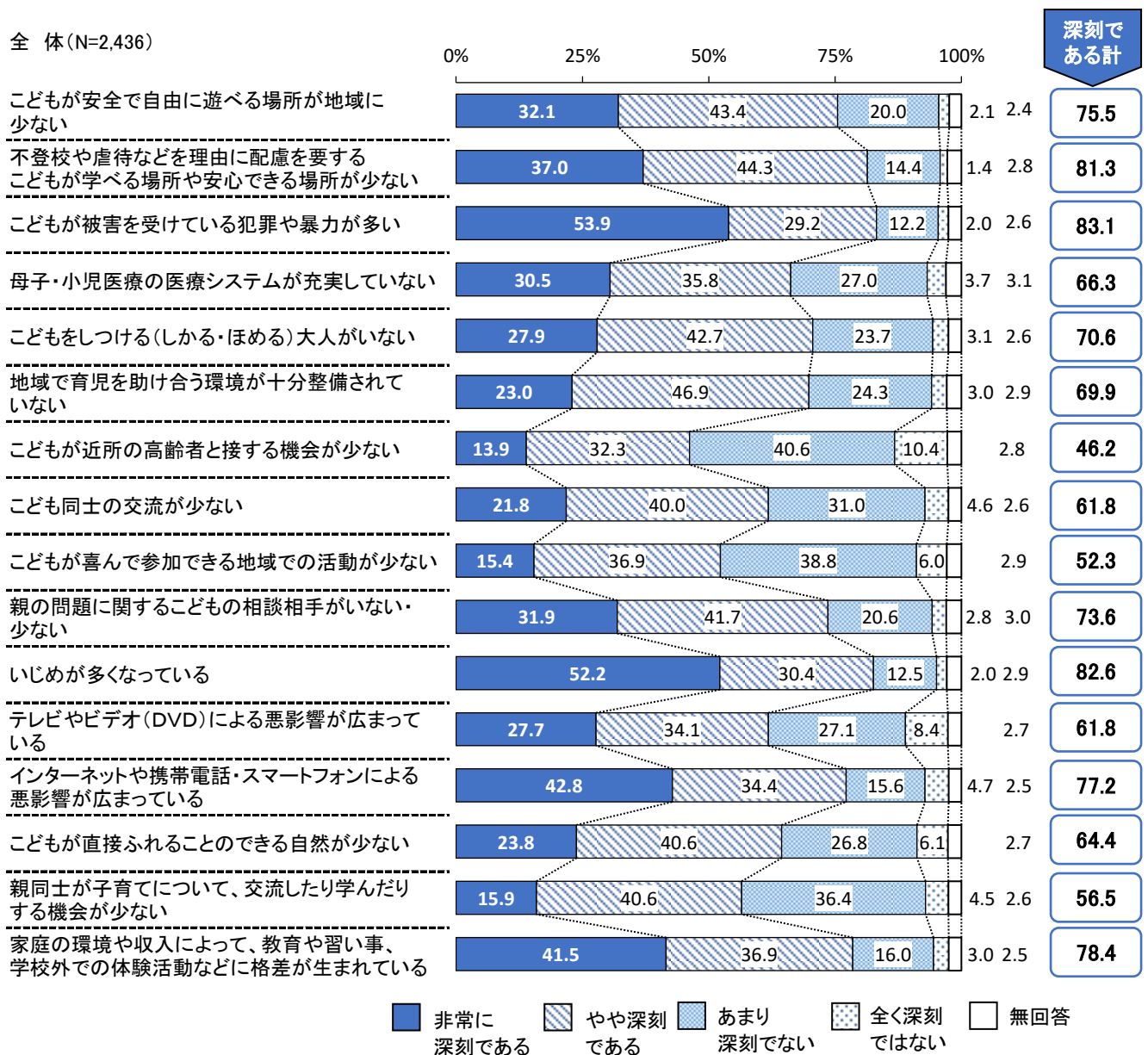
2

子育て環境と支援策について

(1) 子育てを取り巻く環境の評価

- ・子どもを取り巻く環境の評価について、『深刻である』（「非常に深刻である」＋「やや深刻である」）の割合が高いのは、「子どもが被害を受けている犯罪や暴力が多い」（83.1%）や「いじめが多くなっている」（82.6%）、「不登校や虐待などを理由に配慮を要する子どもが学べる場所や安心できる場所が少ない」（81.3%）で8割を超えています。

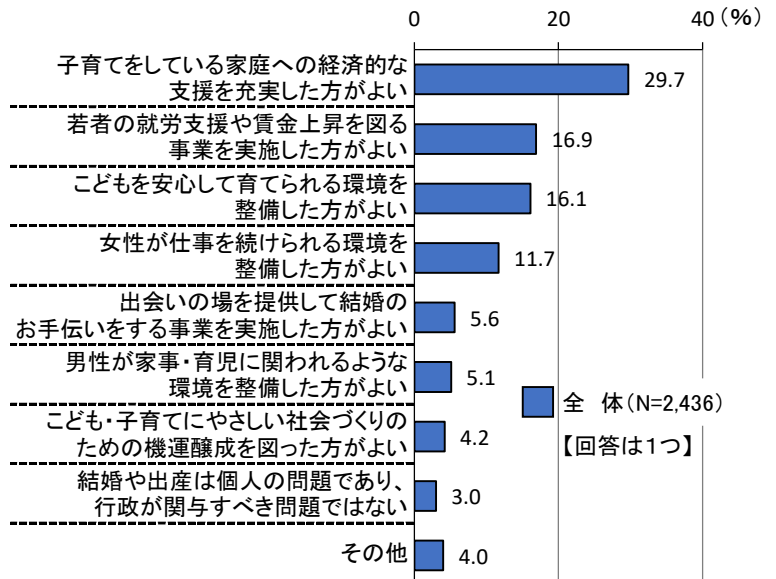
● 子育てを取り巻く環境の評価



(2) 少子化対策に必要な施策

- 少子化対策として最も必要な施策として「子育てをしている家庭への経済的な支援を充実した方がよい」(29.7%)と「若者の就労支援や賃金上昇を図る事業を実施した方がよい」(16.9%)で半数近くを占めており、経済的施策を求める声が多くなっています。

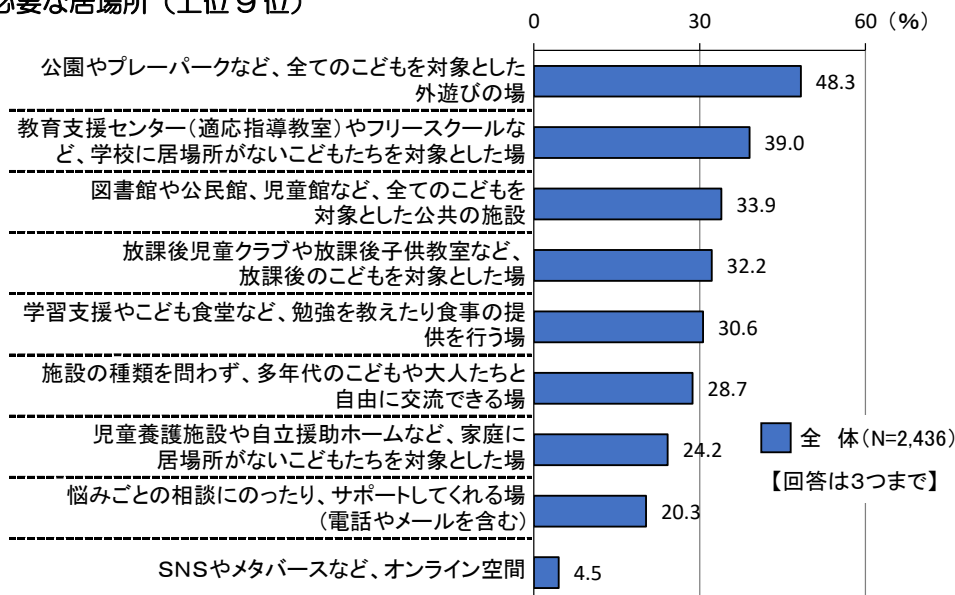
●少子化対策に必要な施策



(3) こどもに必要な居場所

- 学校や家庭以外でこどもの居場所として必要と思う場合は、「公園やプレーパークなど、全てのこどもを対象とした外遊びの場」(48.3%)、「教育支援センター(適応指導教室)やフリースクールなど、学校に居場所がないこどもたちを対象とした場」(39.0%)、「図書館や公民館、児童館など、全てのこどもを対象とした公共の施設」(33.9%)など様々な場が必要とされています。

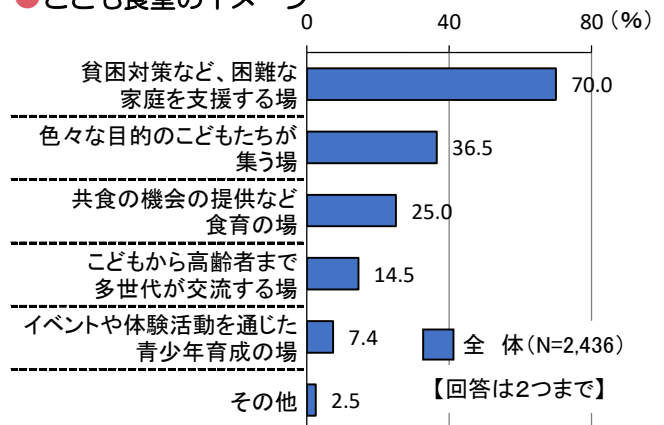
●こどもに必要な居場所(上位9位)



(4) こども食堂のイメージ

- 「貧困対策など、困難な家庭を支援する場」が高く、「共食の機会の提供など食育の場」(25.0%)や「こどもから高齢者まで多世代が交流する場」(14.5%)といったイメージを持つ人は多くはありません。

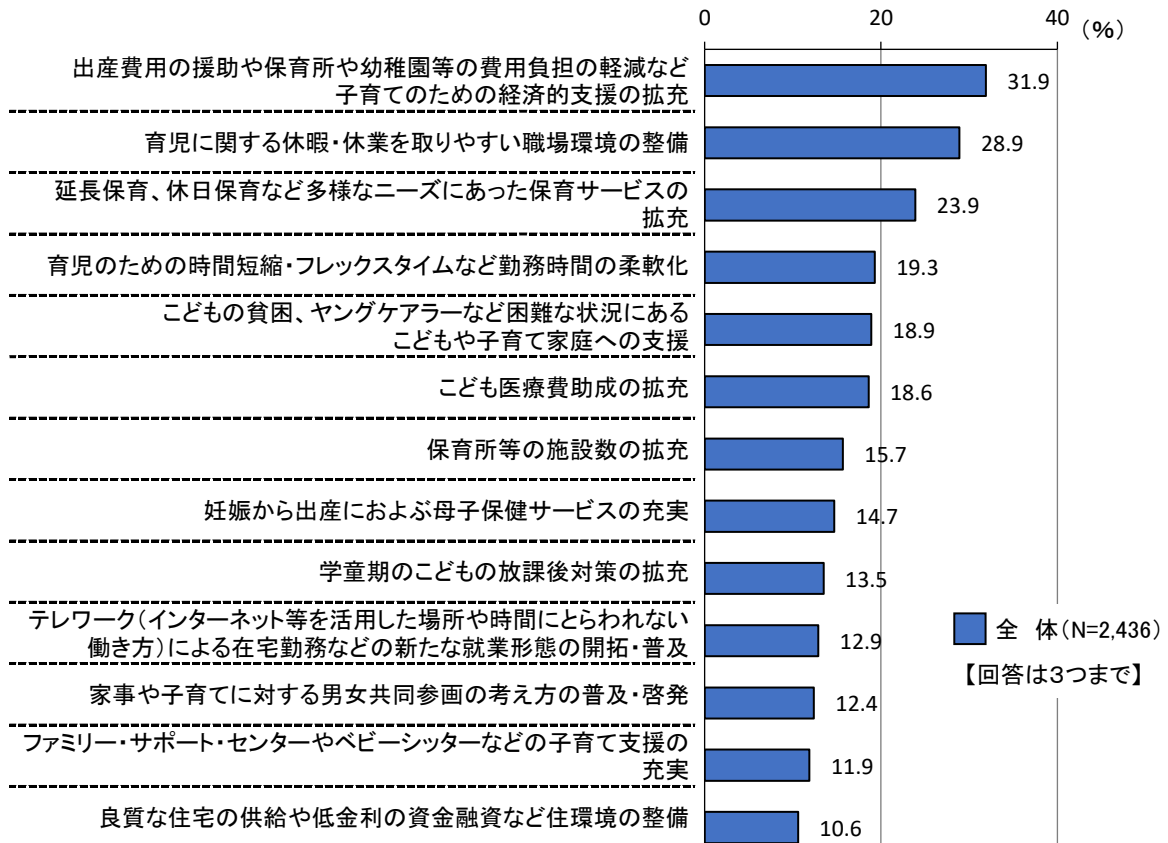
●こども食堂のイメージ



(5) こどもを健やかに産み育てるために期待する施策

- こどもを健やかに産み育てるために期待する施策は、「出産費用の援助や保育所や幼稚園等の費用負担の軽減など子育てのための経済的支援の拡充」(31.9%)、「育児に関する休暇・休業を取りやすい職場環境の整備」(28.9%)、「延長保育、休日保育など多様なニーズにあった保育サービスの拡充」(23.9%)、「育児のための時間短縮・フレックスタイムなど勤務時間の柔軟化」(19.3%)、「こどもの貧困、ヤングケアラーなど困難な状況にあるこどもや子育て家庭への支援」(18.9%)、「こども医療費助成の拡充」(18.6%)などがあげられています。

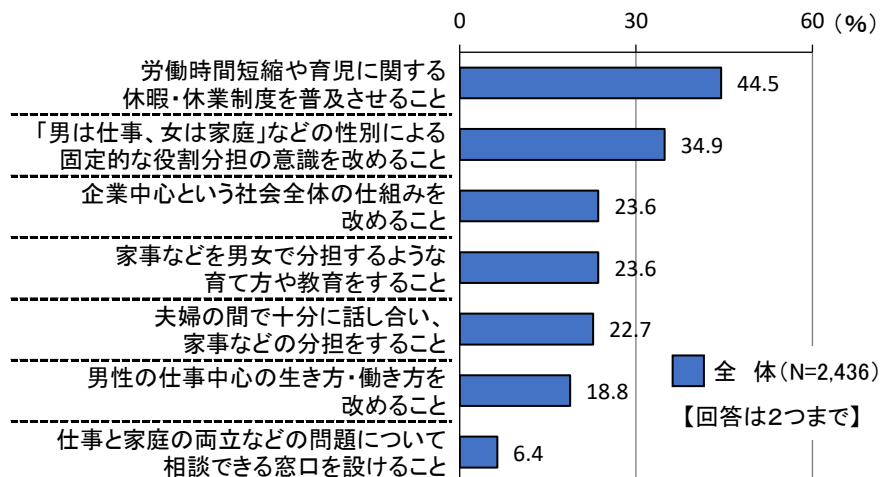
●こどもを健やかに産み育てるために期待する施策（上位13位）



(6) 男女ともに子育てに参加するために必要な施策

- 男女がともに子育てに参加するために必要なことは、「労働時間短縮や育児に関する休暇・休業制度を普及させること」(44.5%)が最も高くなっています。

●男女ともに子育てに参加するために必要な施策（上位7位）



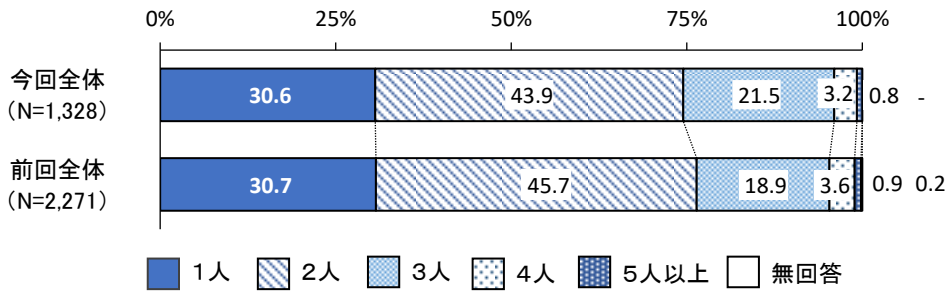
3

子育てについて

(1) こどもの数の現状

・現在のこどもの数は、「2人」が43.9%、「1人」が30.6%、「3人」が21.5%の順となっており、前回調査とほとんど変化していません。

●こどもの数の現状

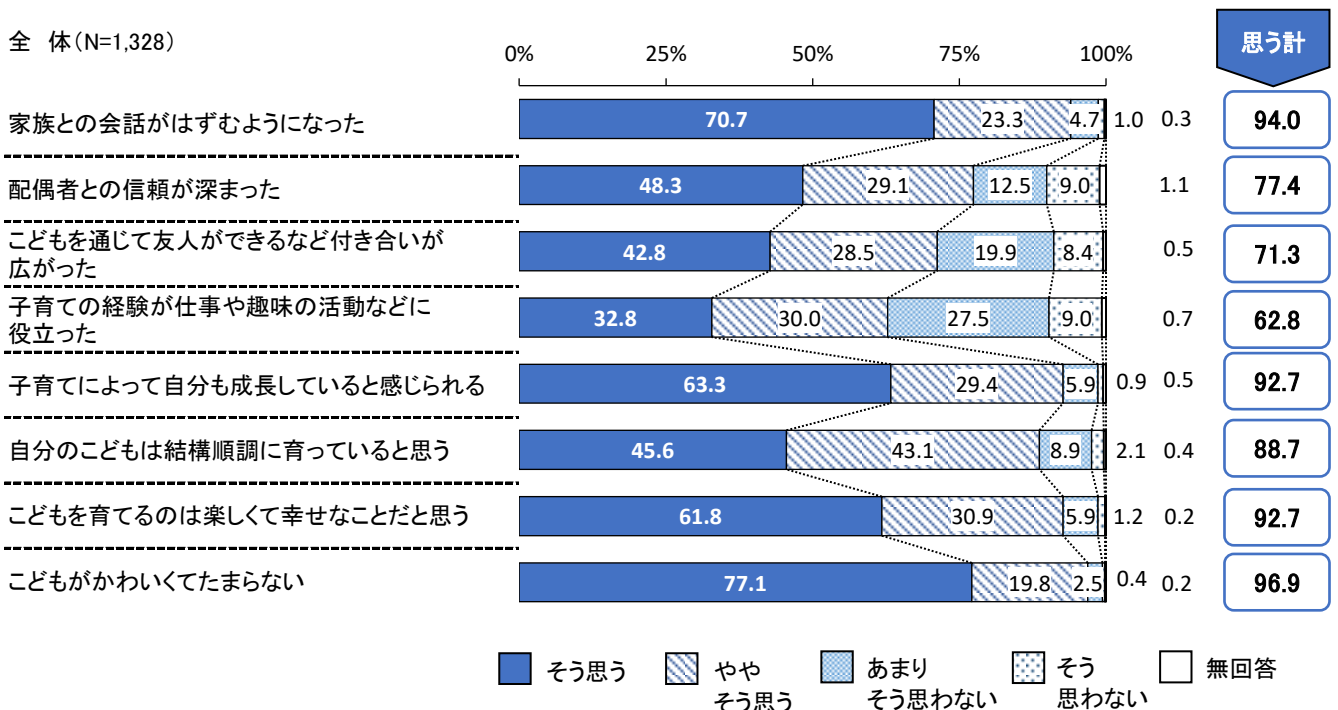


(2) 子育ての楽しさと悩み・不安

◆子育ての楽しさ

・子育てをして良かったことや楽しかったことについて、『思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）が9割を超えているのは「家族との会話がはずむようになった」（94.0%）、「子どもがかわいくてたまらない」（96.9%）、「子育てによって自分も成長していると感じられる」（92.7%）、「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」（92.7%）となっています。

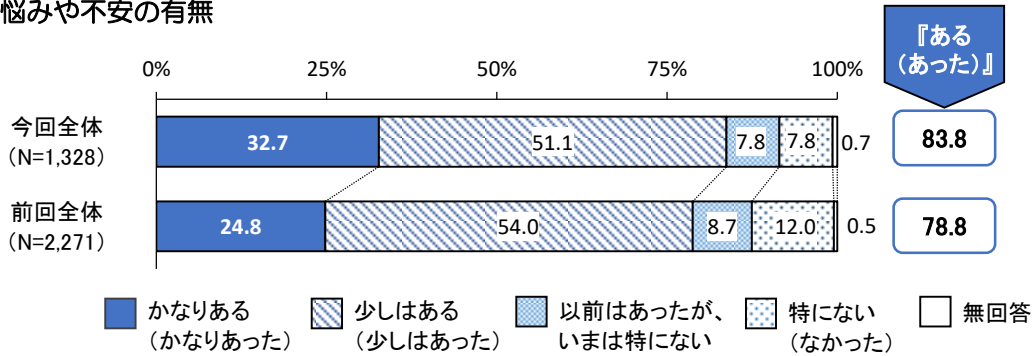
●子育ての楽しさ



◆子育ての悩みや不安

- ・子育てに悩みや不安を感じることにについて、「少しはある(少しはあった)」が51.1%と最も高く、次いで「かなりある(かなりあった)」が32.7%と、これら2つを合わせた『ある(あった)』の割合は83.8%となっています。また、前回調査結果と比較すると、「かなりある(かなりあった)」の割合は増えています。

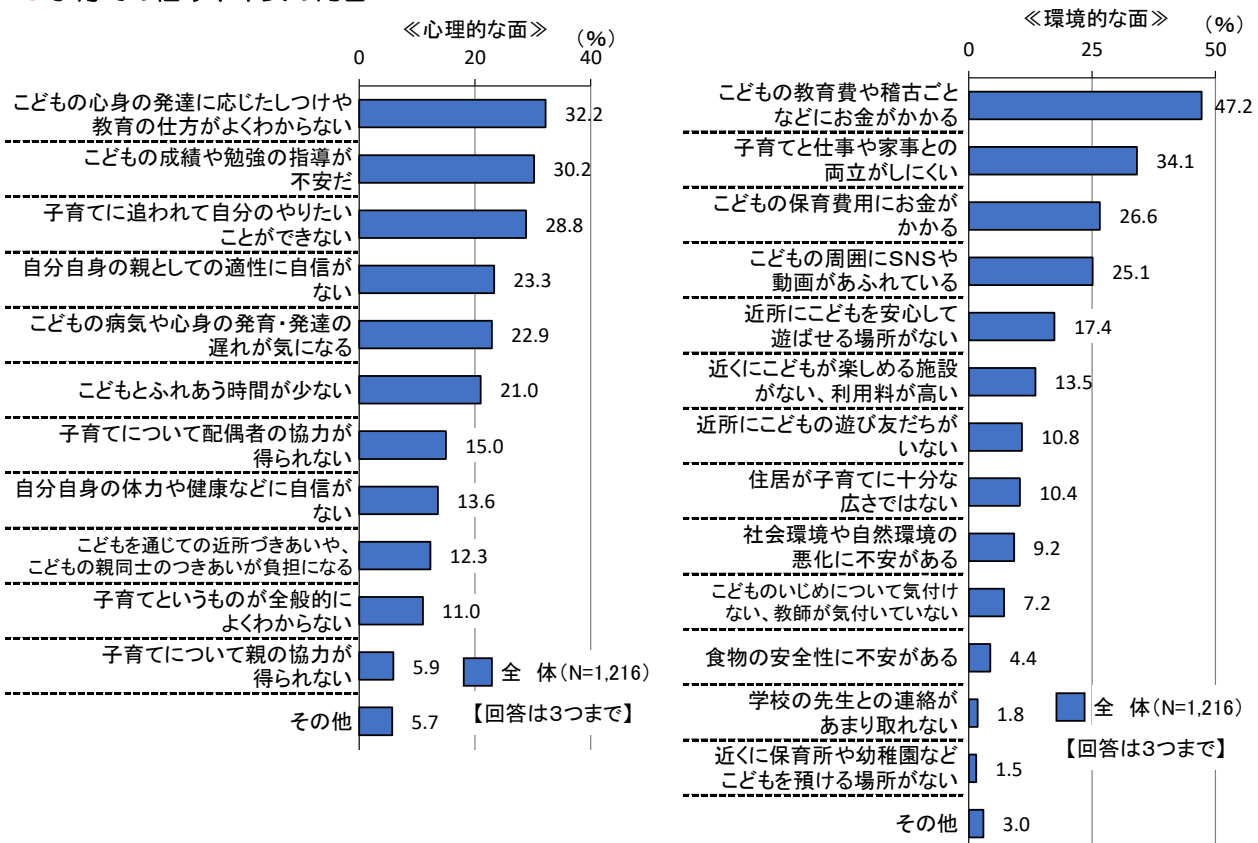
●子育ての悩みや不安の有無



(3) 子育ての悩みや不安の相談先と情報の入手方法

- ・心理面では「こどもの心身の発達に応じたしつけや教育の仕方がよくわからない」(32.2%)や「こどもの成績や勉強の指導が不安だ」(30.2%)、「子育てに追われて自分のやりたいことができない」(28.8%)、「自分自身の親としての適性に自信がない」(23.3%)などが上位にあげられています。
- ・環境面では、「こどもの教育費や積古ごとなどにお金がかかる」(47.2%)、「子育てと仕事や家事との両立がしにくい」(34.1%)、「こどもの保育費用にお金がかかる」(26.6%)などが上位にあげられています。

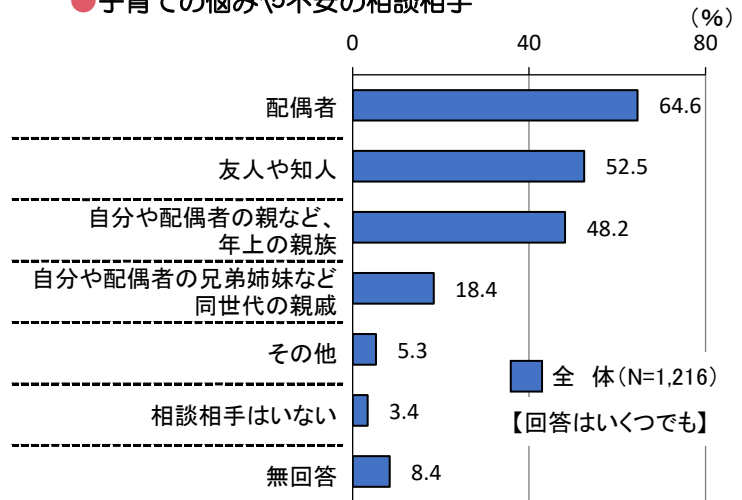
●子育ての悩みや不安の内容



◆子育ての悩みや不安の相談相手

・子育ての悩みや不安がある（あった）人の相談相手は、「配偶者」（64.6%）や「友人や知人」（52.5%）、「自分や配偶者の親など、年上の親族」（48.2%）などが割合は高く、「相談相手はいない」（3.4%）は低くなっています。

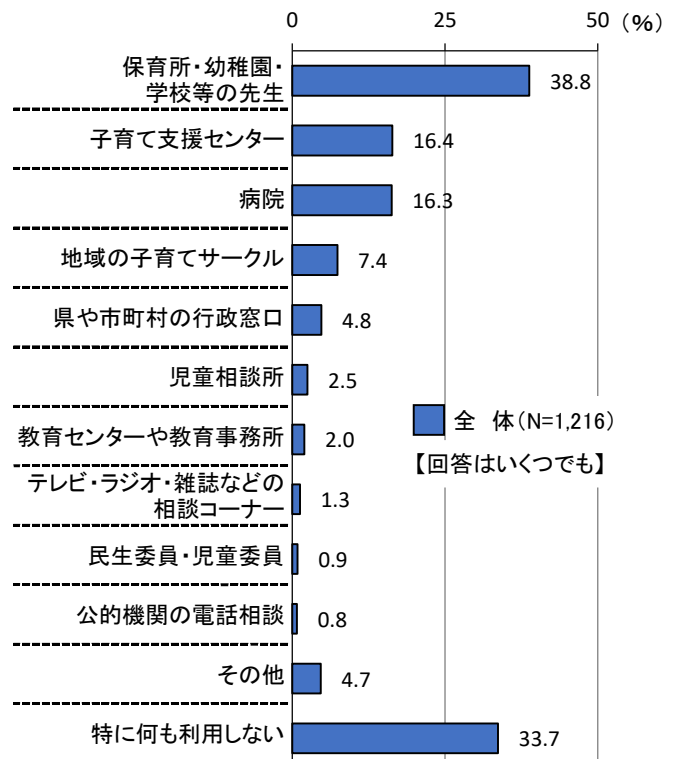
●子育ての悩みや不安の相談相手



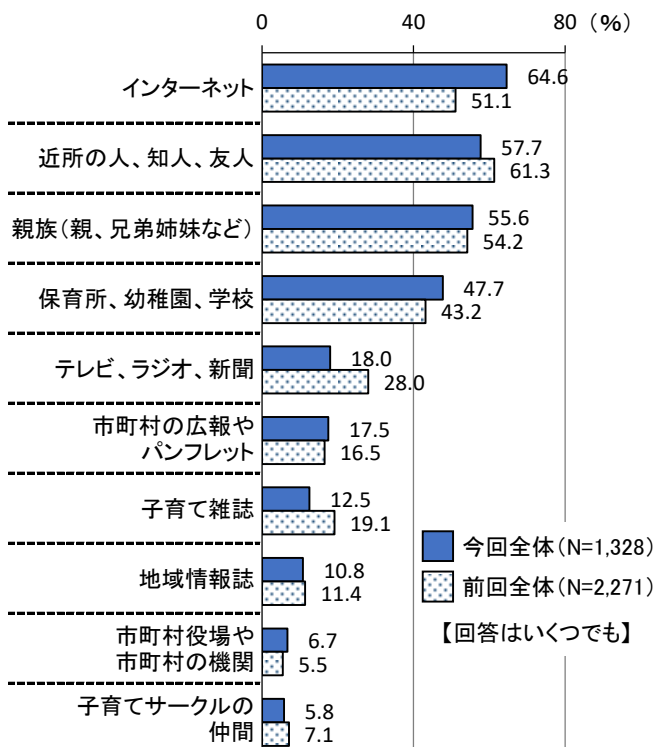
◆子育ての悩みや不安を相談した施設・人物

・「保育所・幼稚園・学校等の先生」が38.8%で最も高くなっています。「子育て支援センター」（16.4%）や「県や市町村の行政窓口」（4.8%）、「公的機関の電話相談」（0.8%）などへの相談経験がある人は少ない結果となっています。

●子育ての悩みや不安を相談した施設・人物



●子育てに関する情報の入手先（上位10位）



◆子育てに関する情報の入手先

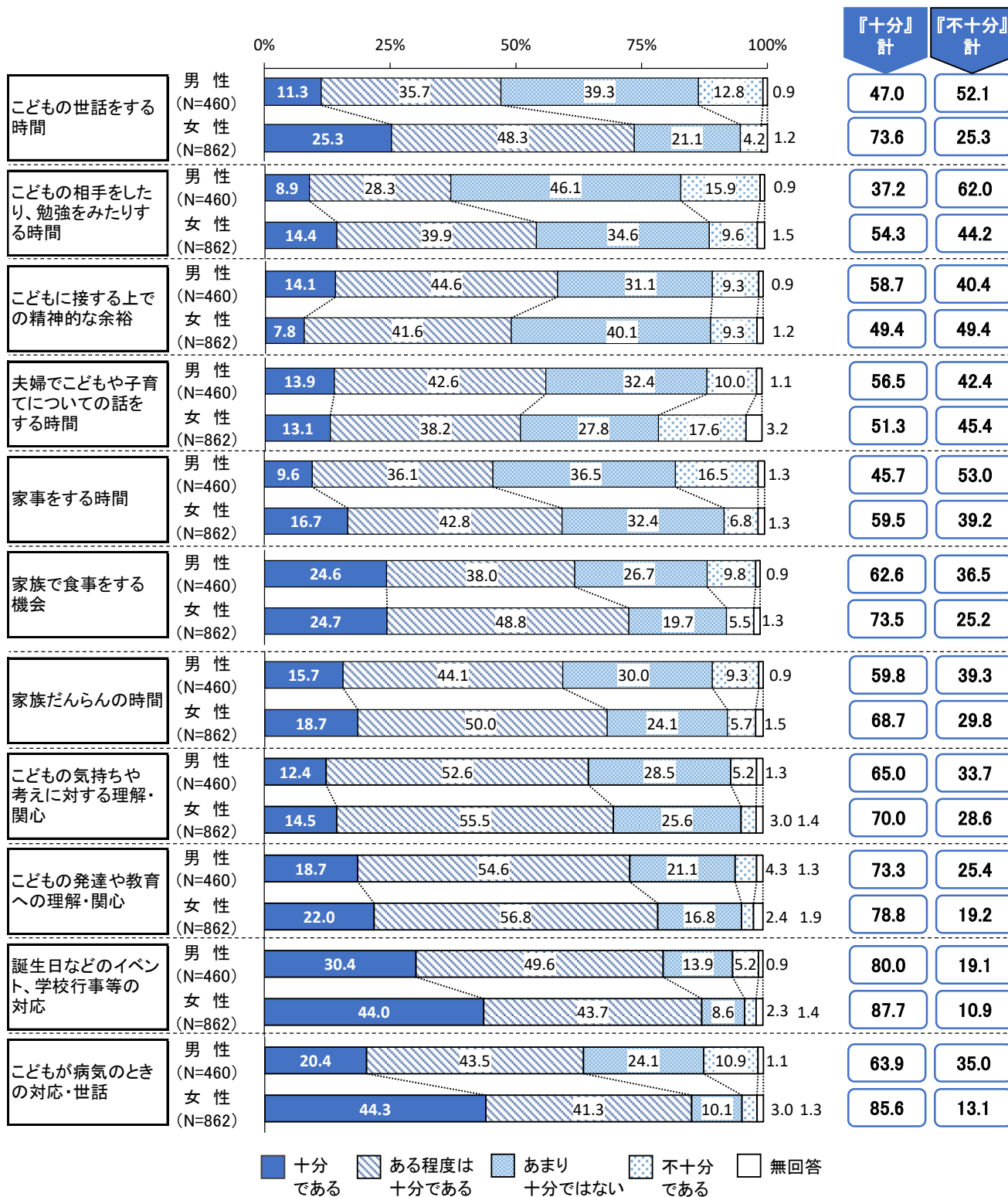
・子育てに関する情報の入手方法は、「インターネット」（64.6%）が最も高く、次いで「近所の人、知人、友人」（57.7%）や「親族（親、兄弟姉妹など）」（55.6%）、「保育所、幼稚園、学校」（47.7%）となっています。特に「インターネット」については、前回調査より13.5ポイント増えています。

(4) 子育てへの関わり方

◆自己評価

- ・子育てへのかかわり方について、『十分』（「十分である」＋「ある程度十分である」）の割合は「こどもの世話をする時間」では女性 73.6%、男性 47.0%、「こどもが病気のときの対応・世話」は女性 85.6%、男性 63.9%と男女差が大きく、ほとんどの項目で『十分』の割合は女性の方が高く、男性はこどもと十分に関わっていないと感じている人が多くなっています。

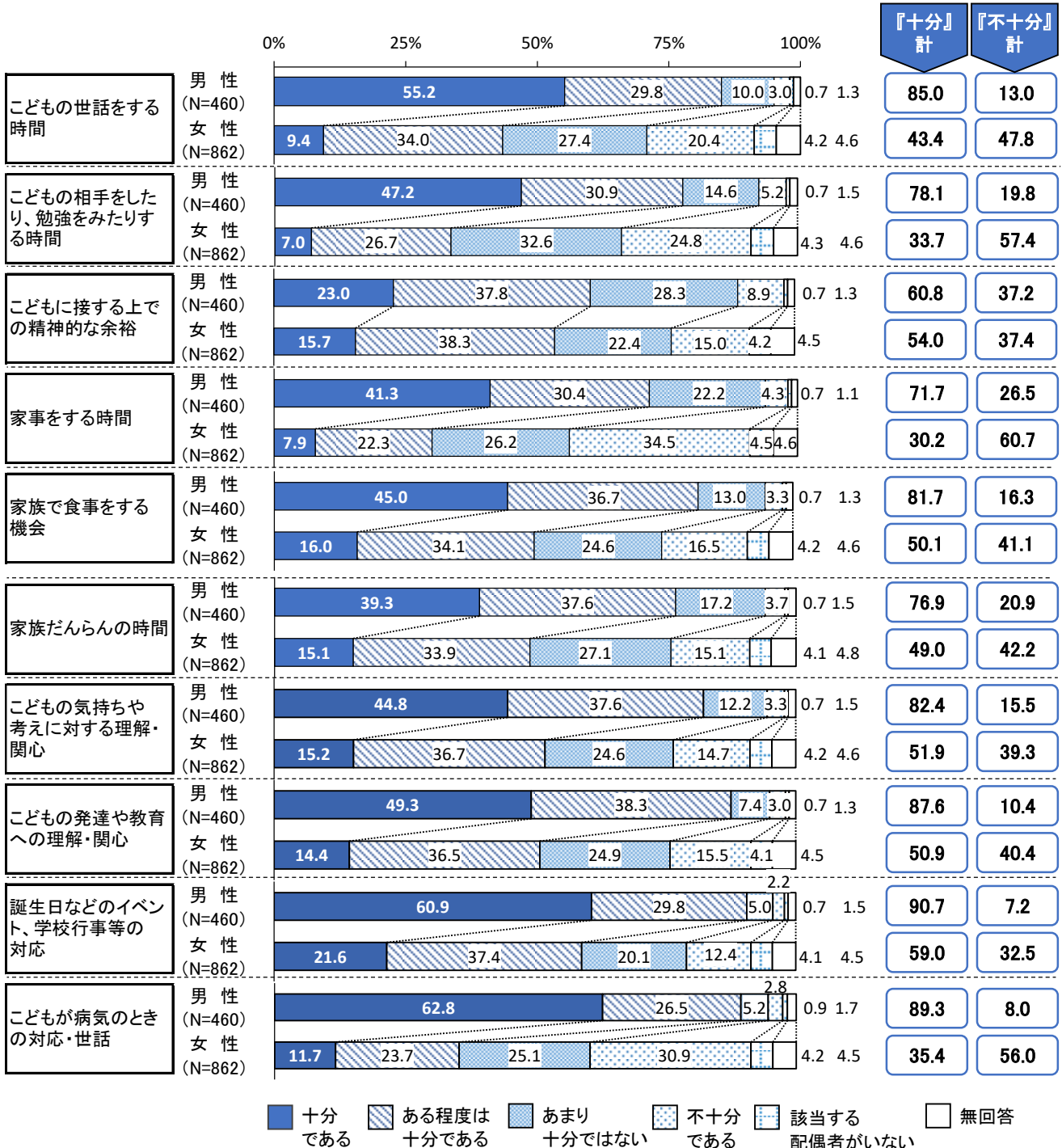
●子育てへの関わり方（自己評価）



◆ 配偶者への評価

・ 配偶者（パートナー）の育児への関わり方については、ほとんどの項目で女性が『十分』と感じる割合は男性よりも低くなっています。自己評価とパートナーからの評価、いずれにおいても男性の育児への関わりは不十分という評価になっています。

● 子育てへの関わり方（配偶者への評価）

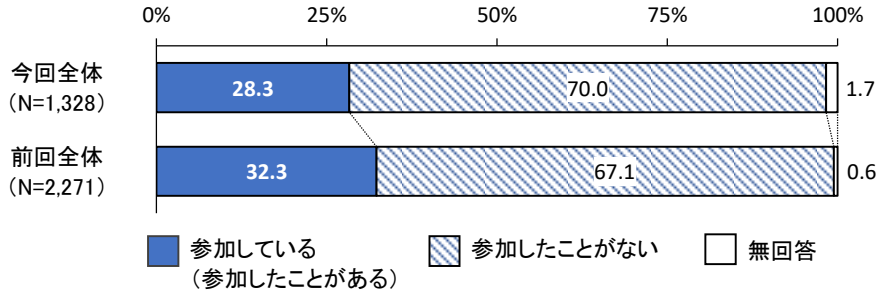


(5) 地域とのつながり

◆子育てサークルへの参加の経験

- ・地域の子育てサークルへの参加は、「参加している（参加したことがある）」が28.3%で、前回調査よりも低くなっています。

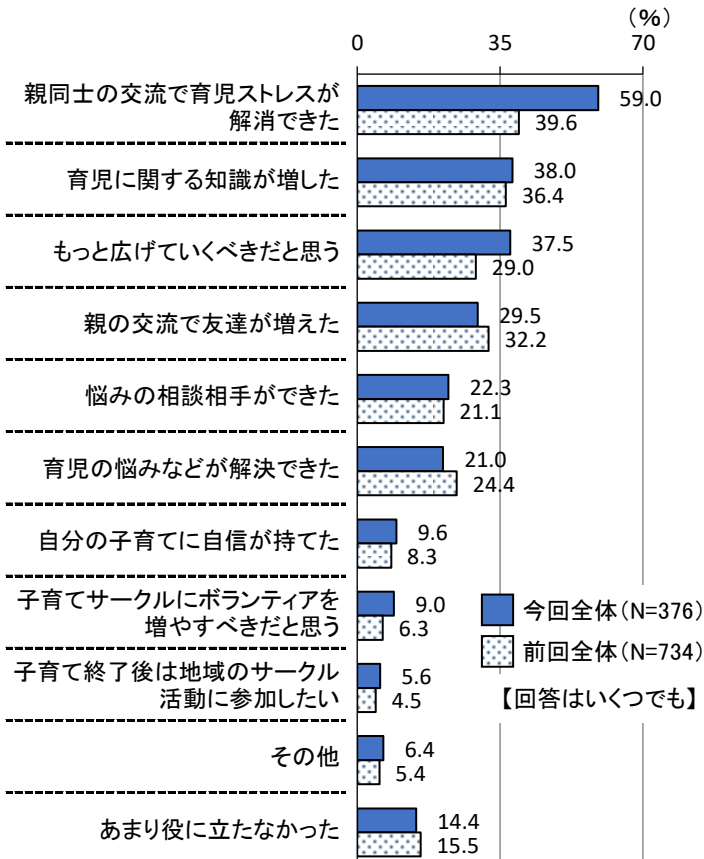
●子育てサークルへの参加の経験



◆子育てサークルに参加して感じたこと

- ・参加経験がある人の感想は、「親同士の交流で育児ストレスが解消できた」(59.0%)や「育児に関する知識が増した」(38.0%)、「もっと広げていくべきだと思う」(37.5%)などの割合が高く、子育てサークルが有意義であったと感じています。

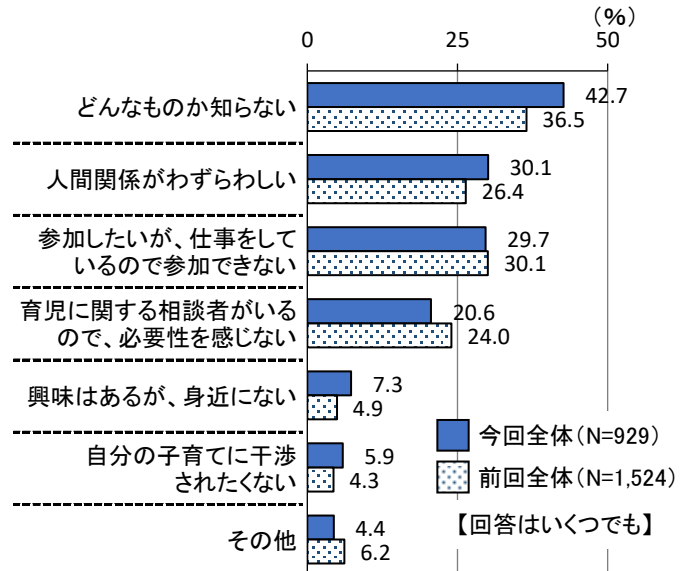
●子育てサークルに参加して感じたこと



◆子育てサークルに参加しない理由

- ・参加経験のない人にその理由をたずねると、「どんなものか知らない」(42.7%)が最も高く、次いで「人間関係がわずらわしい」(30.1%)となっており、いずれも前回調査より高くなっています。

●子育てサークルに参加しない理由

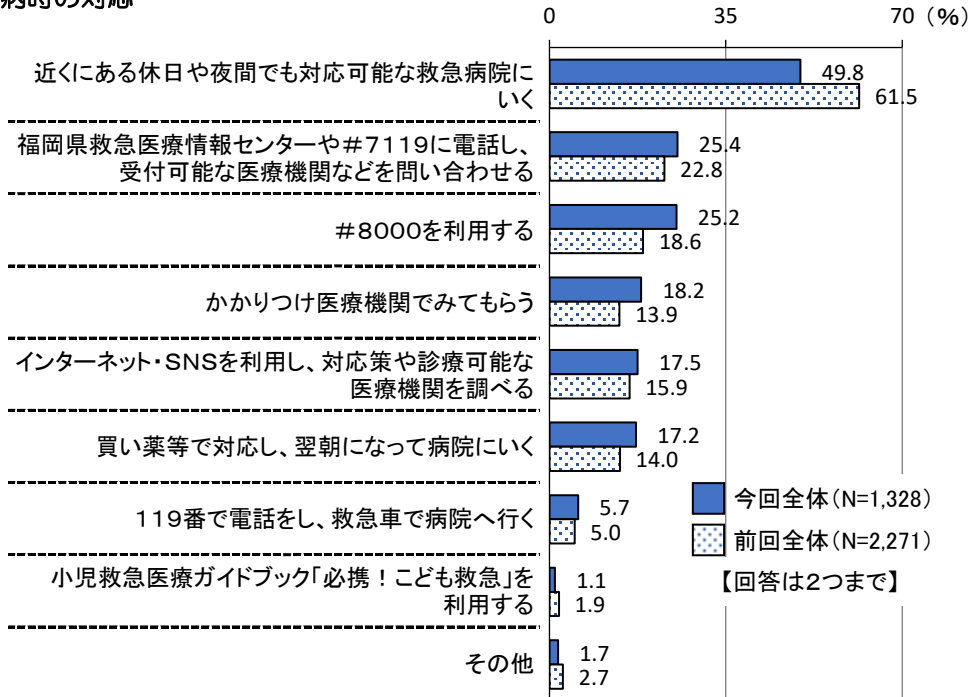


(6) こどもの急病時の対応

◆こどもの急病時の対応

- こどもが休日や夜間に急病になった時の対応は、「近くにある休日や夜間でも対応可能な救急病院に行く」(49.8%)が最も高く、次いで、「福岡県救急医療情報センターや#7119に電話し、受付可能な医療機関などを問い合わせる」(25.4%)や「#8000を利用する」(25.2%)となっており、これらの利用は前回調査よりも増えています。

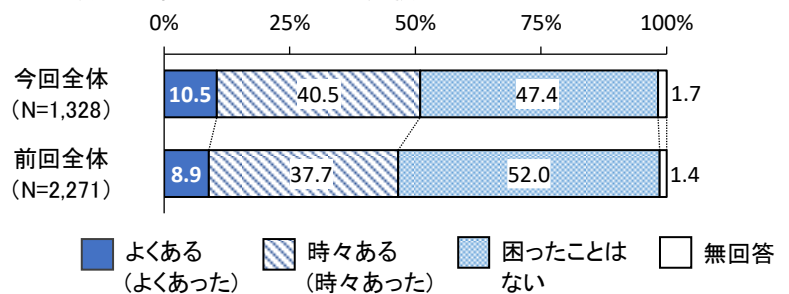
●こどもの急病時の対応



◆小児救急医療について

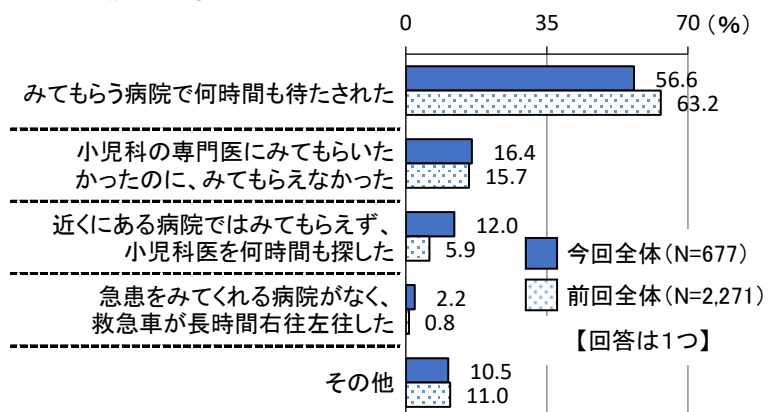
- 小児救急医療について困った経験が、「よくある(よくあった)」(10.5%)と「時々ある(時々あった)」(40.5%)を合わせた51.0%の人が困った経験をしています。

●小児救急医療について困った経験



- 困った内容は、「みてもらう病院で何時間も待たされた」(56.6%)が圧倒的に高くなっています。

●小児救急医療について困った内容



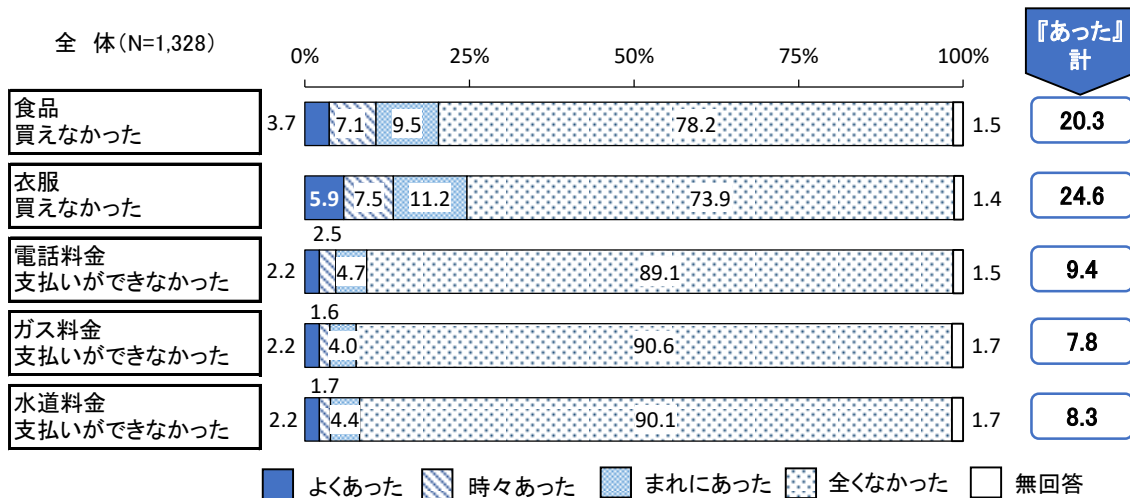
4

家庭と仕事の状況について

(1) 家庭の経済的な状況

- 過去1年間の家計の状況として、生活に必須の「衣服」と「食品」で「買えなかった」ことが『あった』（「あった」＋「まれにあった」）がそれぞれ2割台となっています。「電話料金」（9.4%）と「水道料金」（8.3%）、「ガス料金」（7.8%）もそれぞれ1割弱の人が支払えなかった経験をしています。

● 家庭の経済的な状況

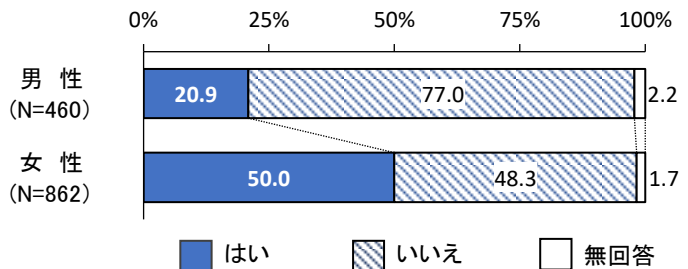


(2) 妊娠・出産と仕事の状況

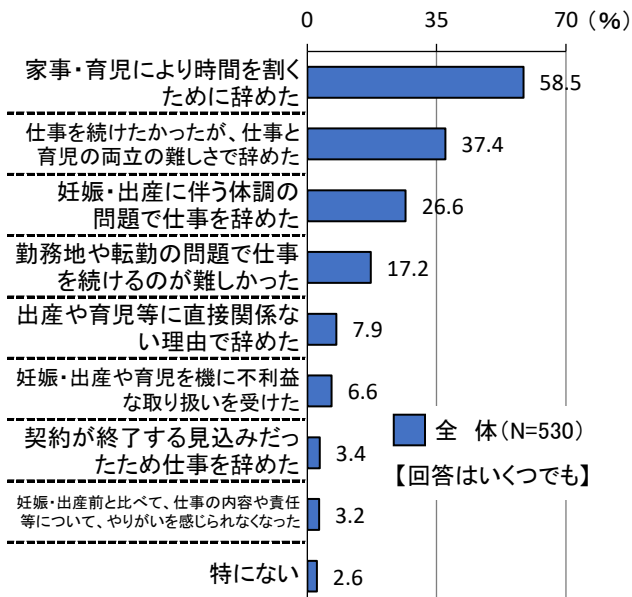
◆ 妊娠・出産を理由に仕事を辞めた経験

- 自身やパートナーの妊娠・出産を理由に仕事を辞めた経験が「ある」人は、女性では50.0%、男性では20.9%となっています。

● 妊娠・出産を理由に仕事を辞めた経験



● 妊娠・出産を機に仕事を辞めた理由



◆ 妊娠・出産を機に仕事を辞めた理由

- 妊娠・出産を機に仕事を辞めた理由は、「家事・育児により時間を割くために辞めた」が58.5%と自ら退職した割合が最も高くなっています。一方で、「仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立の難しさで辞めた」（37.4%）、「妊娠・出産に伴う体調の問題で仕事を辞めた」（26.6%）が第2位と第3位にあげられており、できれば仕事を続けたかったが困難であったという理由も高くなっています。

5

結婚に対する意識について

(1) 結婚のイメージ

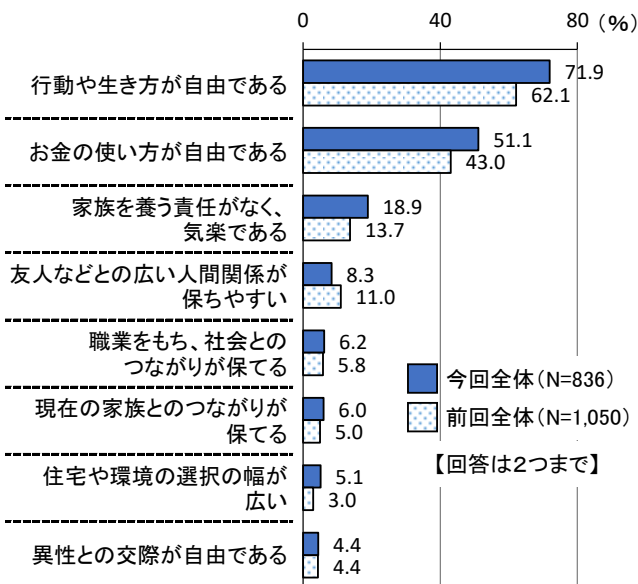
◆結婚のイメージ

・結婚経験がない人がもつ結婚のイメージは、「時間やお金を自由に使えなくなる」(36.8%)や「相手の家族・親族との付き合いが面倒」(29.9%)という否定的なイメージと、「好きな人とずっと一緒にいられる」(31.2%)や「精神的、経済的に安定する」(30.6%)という肯定的なイメージが拮抗しています。しかし、前回調査より、否定的なイメージの割合が増加しています。

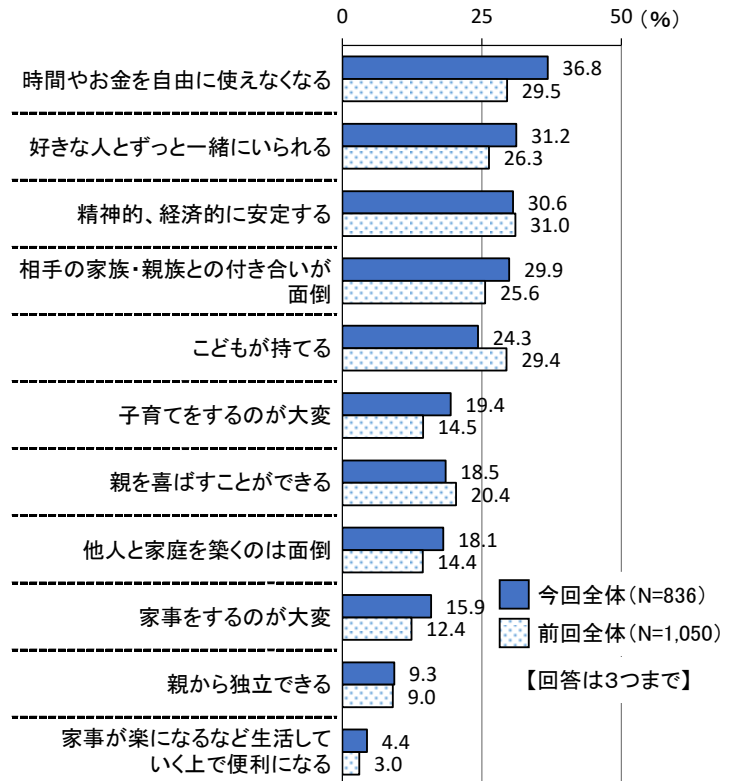
◆独身生活の利点

・独身生活の利点は、「行動や生き方が自由である」(71.9%)や「お金の使い方が自由である」(51.1%)をあげる人が多く、これらは前回調査よりも割合が増加しています。

●独身生活の利点（上位8位）



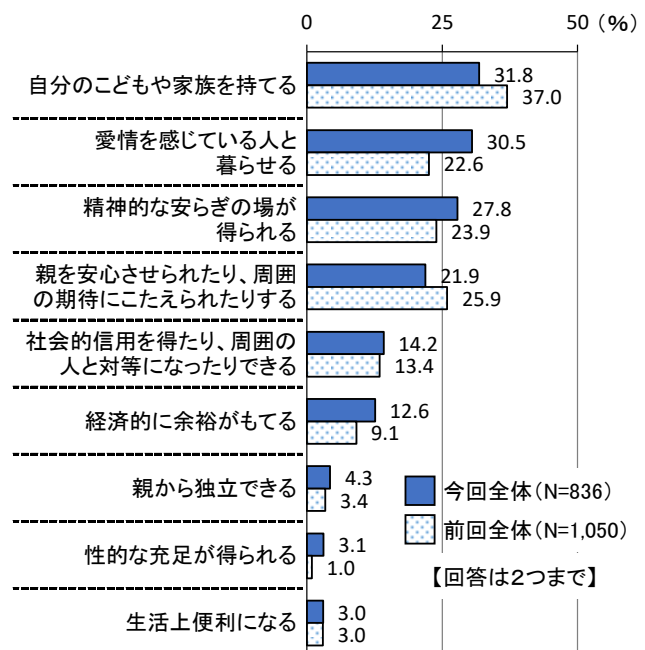
●結婚のイメージ（上位11位）



◆結婚の利点

・結婚することの利点は、「自分のこどもや家族を持てる」(31.8%)が第1位ですが、前回調査よりも割合は減少しています。

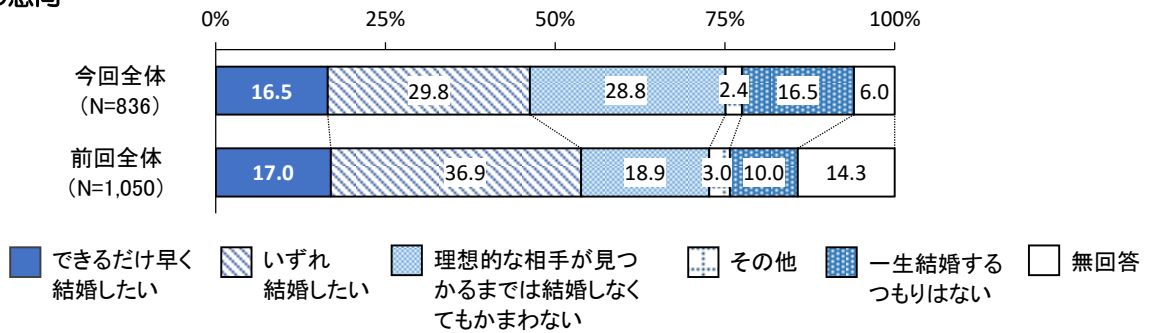
●結婚の利点（上位9位）



(2) 結婚への意向について

・結婚の意向については、結婚の希望を持つ人（「できるだけ早く結婚したい」＋「いずれ結婚したい」）は46.3%となっており、前回調査より低くなっています。

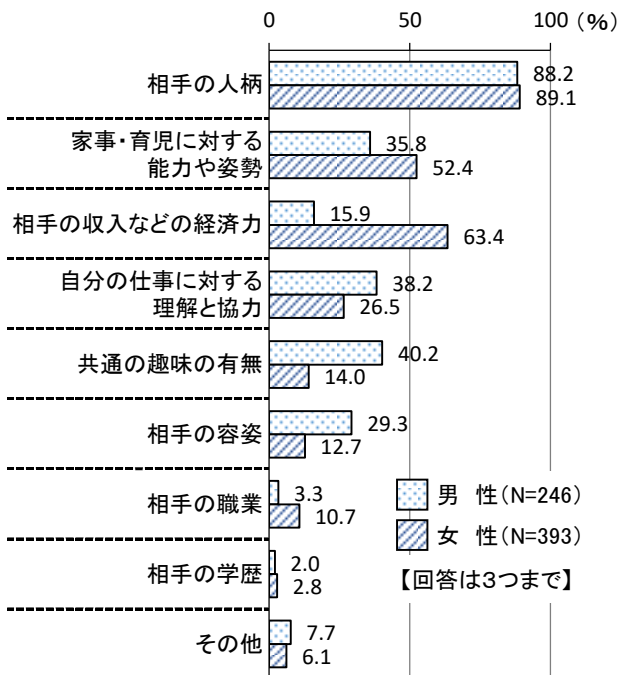
●結婚の意向



◆結婚相手を決めるときに重視するもの

・「相手の人柄」が男女とも約9割で最も高いですが、女性は「相手の収入などの経済力」(63.4%)、「家事・育児に対する能力や姿勢」(52.4%)、男性は「共通の趣味の有無」(40.2%)、「自分の仕事に対する理解と協力」(38.2%)の割合が高く、性別による差がみられます。

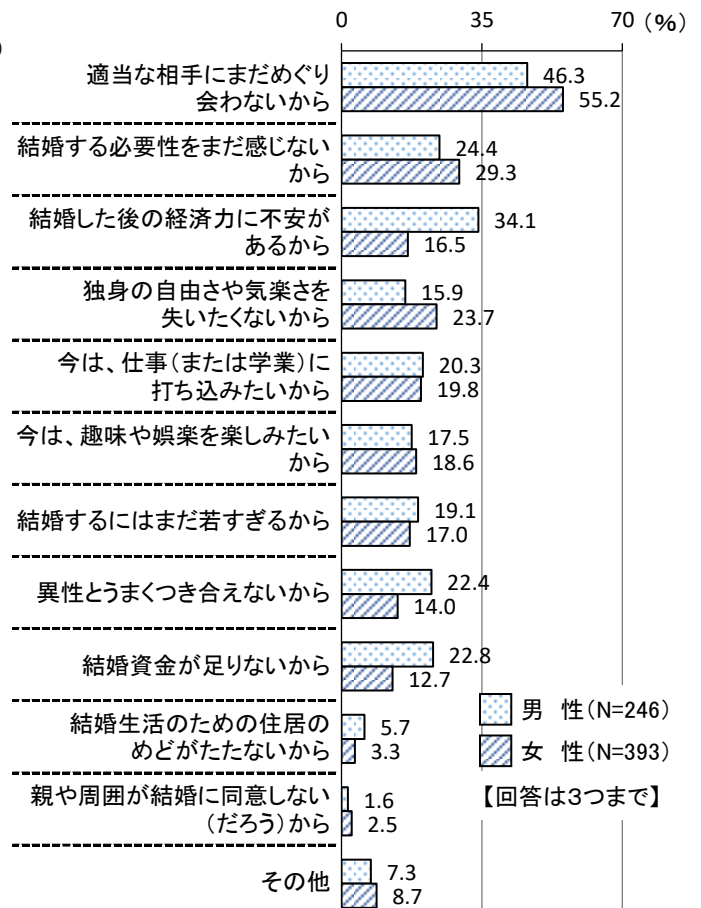
●結婚相手を決めるときに重視するもの



◆独身でいる理由

・「適当な相手にまだめぐり会わないから」が男女とも最も高くなっています。また、男性では「結婚した後の経済力に不安があるから」(34.1%)と「結婚資金が足りないから」(22.8%)、「異性とうまくつき合えないから」(22.4%)も比較的高い割合となっています。

●独身でいる理由

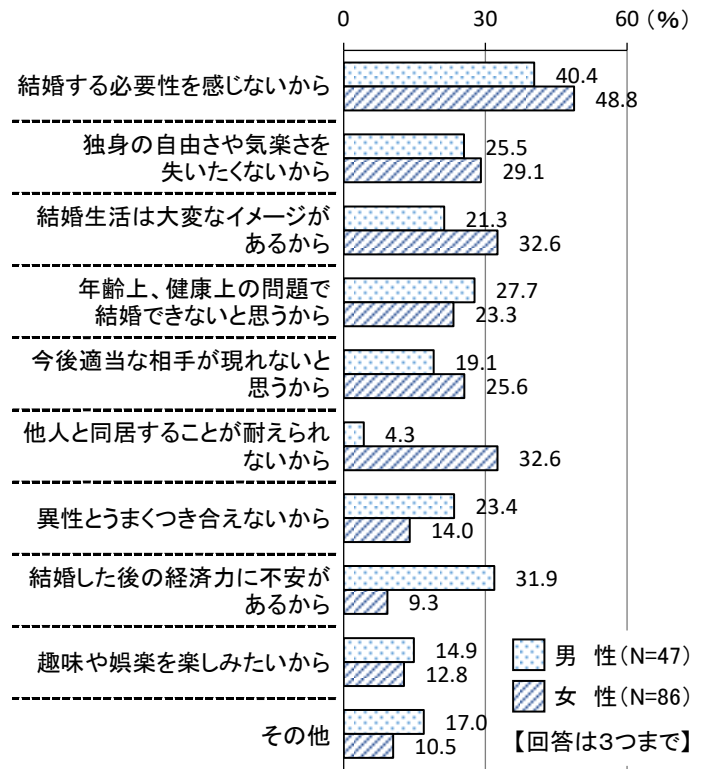


◆結婚するつもりはない理由

・結婚するつもりはない人の理由は、男女ともに「結婚する必要性を感じないから」が最も高くなっていますが、男性は「結婚した後の経済力に不安があるから」が31.9%と高くなっており、独身でいる理由と同様に、経済的な理由により結婚に慎重・消極的になっていることがうかがえます。

一方で、女性では「結婚生活は大変なイメージがあるから」(32.6%)、「他人と同居することに耐えられないから」(32.6%)が高くなっており、結婚にマイナスのイメージを持っていることがうかがえます。

●結婚するつもりはない理由

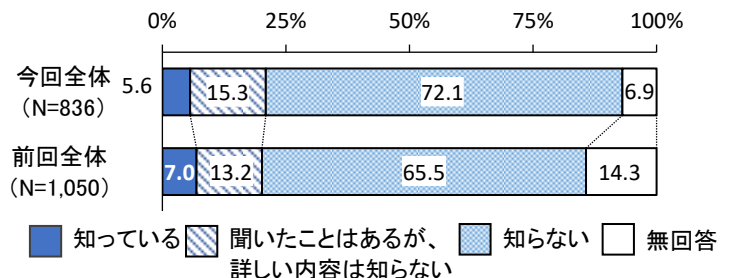


(3)「出会い・結婚応援事業」

◆「出会い・結婚応援事業」の認知

・「知っている」人は5.6%、「聞いたことはあるが、詳しい内容は知らない」は15.3%となっており、前回調査とほぼ変わらない数値となっています。

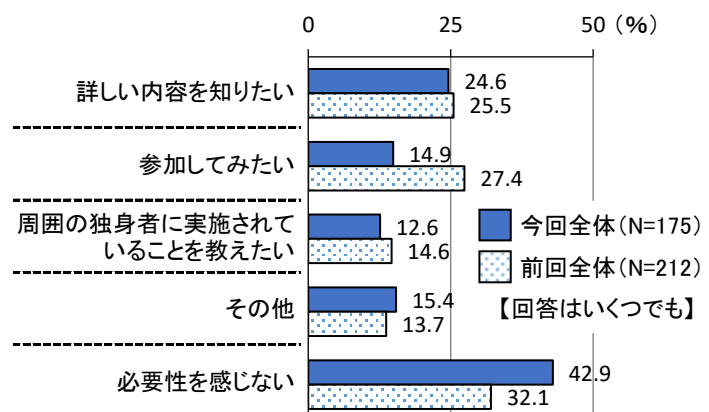
●「出会い・結婚応援事業」の認知



◆「出会い・結婚応援事業」について

・今後「参加してみたい」人は14.9%で、前回調査よりも12.5ポイント減少、「必要性を感じない」は42.9%で、前回調査よりも10.8ポイント増えています。

●「出会い・結婚応援事業」について



- ◆[発行] 令和6年3月
- ◆[発行/調査主体] 福岡県 福祉労働部 こども未来課
〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
(TEL)092-643-3013 (FAX)092-643-3765

福岡県行政資料	
分類記号 HB	所属コード 4600119
登録年度 5	登録番号 0001